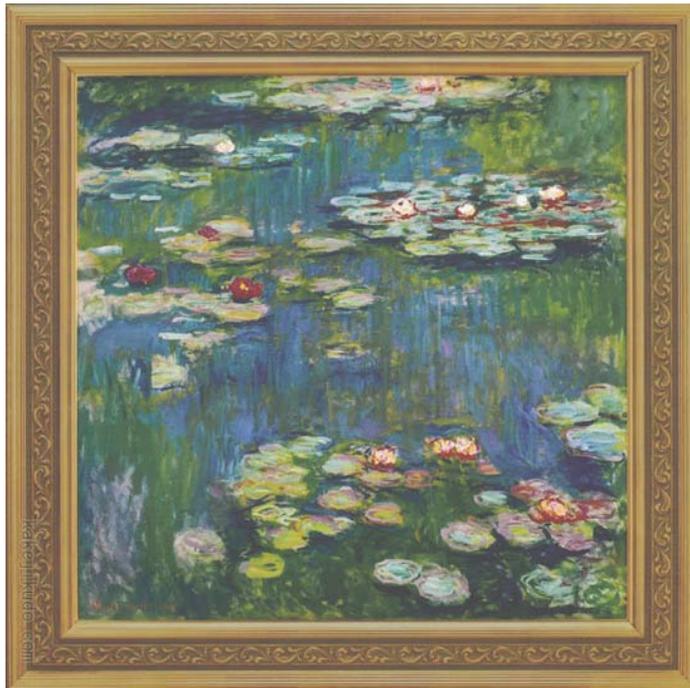




平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 3月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。



『 自然に人生を捧げても 善人になれるとはかぎらない 』
『 魂を解き放ち 秩序を離れ 自然の息吹を捉える・・・ 』
『 それが できると思うなら あなたは自分を 欺いている 』

先日 WOWWOW で、クロード・モネの生涯をドキュメントしていた。冒頭では、こんなナレーションが出て来た。自然に人生を捧げるとは抽象的だが、そんなことで善人になれるとは限らないと自分もそう思う。魂を解き放ち、秩序を離れ、自然の息吹を捉える。これはいい。自分にはイメージが具体的に湧く。そう思う次の瞬間、それが出来ると思うなら、あなたは自分を欺いていると決めつけて来た。

魂を解き放つとは、確かに西洋人的な発想で、自分は身体と魂とが別に存在しているとは思えない。多少のズルはしても魂をピュアにしたいなら、自然と対極

にある化学的な影響を付加した食糧品は摂取しない。これが本質だろうと思う。だからって善人になれるとは限らない。そもそも善人なんて概念は、自分を評価するカテゴリーにはないはずで、他人が勝手に評価の名詞として使うだけ。そして概ねその評価には、恣意的なものが含まれていることが多い。

『秩序を離れる』とは、おそらく意図する、しないに係わらず、人間が創り上げて来た概念の秩序を述べているのだらうと思う、それが・・・欺いて・・・に繋がっているのだらうと思う。番組を通して、モネは『水と光』を描いていると言っている。つまり、秩序を離れ、モネが一体と成ろうとしたのは、この水と光だらう。そうして、例え複製品にしても、観ていると確かに水と光と一体になったからこそ、いちまいの絵画として世界観を感じられるのだらう。

更に言うならば、自然の息吹を捉えるとは、そうしたことは入り口に過ぎない。この事はいずれ物理学が証明してくれると思うが、今は、私たちはまるで藁にもすがるように、信じる事柄が無いと不安に陥る。それは不安を嫌う秩序があるからだが、その秩序から離れてみると、案外不安とは霧散していくものだと分かるはずだ。

宗教心には欠けるが自分は神の存在を認めてしまう。表現を神と呼ぶかどうかは、救われたいかどうかの問題で、証明能わざる理解を超えたエネルギーを感じている。このエネルギーを『自然の息吹』として捉えているに過ぎないが、なるようになり、無理強いしてもならないは、今と過去の問題だが未来は違う。望むことが秩序を離れ、自然の息吹に順う限り事は成り、そこに深淵なる秩序が存在していると思える。『できると思うなら』とは、そこに**自らの意志と深淵なる秩序との関連に融和性がある**なら、それは具体的なエネルギーとして、つまり物理学で証明される秩序から解放された量子の性格を基礎としていると思うのだが如何だらう。

さて、今月は 2023 年 3 月である。自分の中ではドルと円の為替レートが 120 円を切れれば、Gold の買い時だと思っている。売り時は 2024 年 12 月だと思う。トラック競技で 400m を走るなら、curve で start して、向こう正面の直線で position を決め、次のカーブで Spurt の時期を決める。

昔、清水一行の『虚業集団』という小説を読んだ。30 歳の時と記憶しているから 40 年前の話だ。実業に疲れ果てた時だった。実のある仕事がしたい、いやもっと言うと、それ以外はしたくないと思っていた。『実のある』とは『人の役に立つ』という意味である。この『実のある』と『融和性』とは同じ意味を持つ。つまり虚業とは、今でいう金融経済で事を為すことを指している。その時、面白そうだけど、面白くなさそうだった。だから身体が動く間は実業でいようと思った。従って今も八百屋をやっている。

ただ、過去を見ていると世の中がひっくり返る時は、ただ静観しているだけではなく、その只中に身を置いてみたいと思うようになった。結果の問題ではない。世の中がどうなろうと黙って土を耕し続けることも魅力のひとつには違いない。そうなろうともした。だけど自分に与えられた天分があるとしたら、そこでは無いなと思う。

誰がどう考えても、小学校の時に思った、ポルトガルからスペイン、イギリス、アメリカと来たら、次はどうなるのかが存在する。次は中国だとするなら、それはあまりに馬鹿げている。ここまで世界のボーダーが無くなれば、直接支配を可能と考えた方が普通だ。

だって、号令一下世界中がマスクをして歩く、或いは家から出歩かないなど、物の見事な統制が可能だと、生命を担保に取れば、一斉に従順になることは証明されたばかり。しかも被支配者同士が監視する見事さ。

ロシアはプーチンがユダヤ資本を締め出しているのだから、そこからの逆襲があるだろう。中国は分からない。ただ、怖くて調べられないが、人民銀行に対する同資本の影響はどうなっているのだろう。いずれにしても、ドルは、オイルという後ろ盾を失った限り、またオイルがエネルギーの中心から外れる限り、あるいは一体なのかも知れないが、円同様の地方通貨にならざるを得ない。誰し

も恩恵の無いところに同盟はない。この列島から米軍が撤退した後のこの国の有りようを、想像できているひとがどれだけいるのだろうか。それぞれ個別の出来事のように見えがちだが、実は一本のライン上に並んでいるように見える。

2009 年のヒラリー・クリントン国務長官の年次教書は、自分にとって衝撃だった。世界を地政学的に 3 分割するという発想を書いていたが、南北アメリカ大陸はエネルギーをどうするつもりなのかと、会社の朝礼で話したことがある。

今は簡単だ。原油から原子力に移行すれば良いだけと分かっている。だって車屋さんは洋の東西を問わず、みんな電気仕掛けに移行しようとしている。CO2 削減と声高に叫びながら、まさか火力発電するとは言えないだろう。欲しいのは、車載蓄電池に直接充電じゃなく、電動自転車同様のカートリッジ式の電池だ。これが普及しないと電気自動車は普遍化しないと思う。その技術も、もう目途が立っているのだろう。

俗にエネルギーと食糧を支配する者が・とは聞かぬが、原油を運ぶより、各家庭に低温核融合施設を設置する方が簡単そうだ。そうすると中東でややこしい事をして間接支配しているより、ウラン・プルトニウムを支配して、運ぶ方が簡単そうだ。流れない石炭より流れる原油に分があったように、誰にとってというより使う側の論理に近づけた方が、新たな秩序を生みやすいという事なのだろう。

今号は、BI というデータ分析のセミナーに参加していて、空き時間に寿司屋に寄り、舌を満たして書いているので、饒舌だ。

A 点から B 点に移行するには、直線的に移動出来るのが優位に立てる。すべての現象には、探せば一定の要素で傾向が出て来る。西へ進めば東に到達するように。将棋は生身の棋士が指す方が面白いが、ビジネスなら、そこは機械の方が早い。だって筆算するより電卓が早いから。